

●いろいろな「みんな」について  
前ページ(i i いろいろな「みんな」とは)にも詳しい解説を記載しています。

●見た目にはわかりにくい障害もある

聴覚障害や内部障害は見た目にはわからないため、障害があることに気づかない場合も多くあります。

・内部障害とは  
心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう・直腸、小腸機能の障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害を総称して内部障害といいます。

(H22.4より肝臓機能障害が追加)  
内臓に障害のある人は、疲れやすかったり、ストレスを感じやすかったりします。見た目からはわからないために周囲から理解を得られにくいことがあります。

心臓に疾患がある人が体に埋め込んでいるペースメーカーは、携帯電話などの電子機器の影響を受ける恐れがあります。

オストメイト(腹部などに排泄のための人工肛門・人工膀胱を造設した人)は、便や尿をためておくためのパウチを腹部に装着しており、特別な設備を備えたトイレが必要です。(多機能トイレについては、p.4解説に詳細)

「みんな」にとってやさしい社会って、どんな社会だろう？

みんなが、できるだけ不便や不自由をしないで、行きたいところに気持ちよく行けるような「バリアフリー社会」が求められています。

●「バリアフリー」ってなに？

「こころのバリアフリーガイドブック」  
教師用解説書

(児童・生徒への指導ポイントや問い合わせ例、自由研究など)  
ご希望の方は下記の連絡先までご連絡下さい。

【連絡先】  
〒231-8433  
神奈川県横浜市中区北仲通5-57  
関東運輸局 交通政策部 共生社会推進課  
045-211-7268  
ktt-barrierfree@gxb.mlit.go.jp

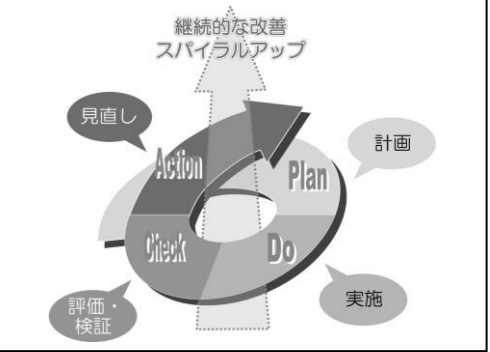
★児童への問い合わせ例  
・「バリアフリー」という言葉を聞いたことがありますか？

●バリアフリー新法  
建物や公共交通機関(鉄道や船、バスなど)、道路などの改良を地域全体的に行っていくことを定めた法律(障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法))が18年にできました。建物や公共交通機関のバリアフリー化だけでなく、高齢者や障害者が、困っている人のために、自然に手助けできるようにしています。

ユニバーサルデザイン  
ユニバーサルデザインでも特別に区別されず、誰もが生活をおくることができ、本来の望ましい生活を送るための考え方。ユニバーサルデザインで提唱され、障害者や高齢者など、誰もが暮らしやすくなるための環境整備を進められています。

ユニバーサルデザイン  
「ユニバーサル社会」の実現のため、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れられています。

ユニバーサルデザイン  
ユニバーサルデザインとは、物事に取組むにあたって、事前の検討段階から事後の評価の段階に至るまで当事者が積極的に参加しながら、取り組みの段階的かつ継続的な改善を行うことです。



★児童への問い合わせ例

- ・いろいろな「みんな」には、他にどんな人がいるのでしょうか？
- ・どんな人がまちで「困っている」のでしょうか？  
→お年寄りや身体に障害のある人だけでなく、知的・精神・発達障害のある人、妊娠中の人や子供づれの人、外国人やその場所に不慣れな人、一時的に怪我をしている人などがいます。
- ・障害のある人をみかけたことがありますか？
- ・その人は何かに困っているように見えましたか？  
→障害のある人が、常に何かに困っているわけではありません。  
→障害があるように見えない人でも、何かに困っている人がいるかもしれません。  
→「障害のある人」=「かわいそうな人」というわけではありません。障害のある人も、多くの人がみなさんと同じように勉強や仕事をしたり、まちで買い物をしたりして暮らしています。それに、たとえば年をとったりけがをするなどして、身体が不自由になることは誰にでもありえることなのです。  
→「障害は特別なことではない」と考えてみましょう。障害のある人も、ない人も一緒に気持ちよく暮らしていくためにどうしたらいいかを考えましょう。



はじめからできるだけ多くの人利用可能ように、利用者本位、人間本位の考え方に立って快適な環境をデザインすることです。

この考え方は、ノースカロライナ州立大学(米)のロナルド・メイス教授(1941-1998)らが1980年代に提唱したもので、7つの原則が示されています。

ユニバーサルデザイン7原則:

- 原則1: 誰にでも公平に利用できること
- 原則2: 使う上で自由度が高いこと
- 原則3: 使い方が簡単ですぐわかること
- 原則4: 必要な情報がすぐに理解できること
- 原則5: うっかりミスや危険につながらないデザインであること
- 原則6: 無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること
- 原則7: アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること

